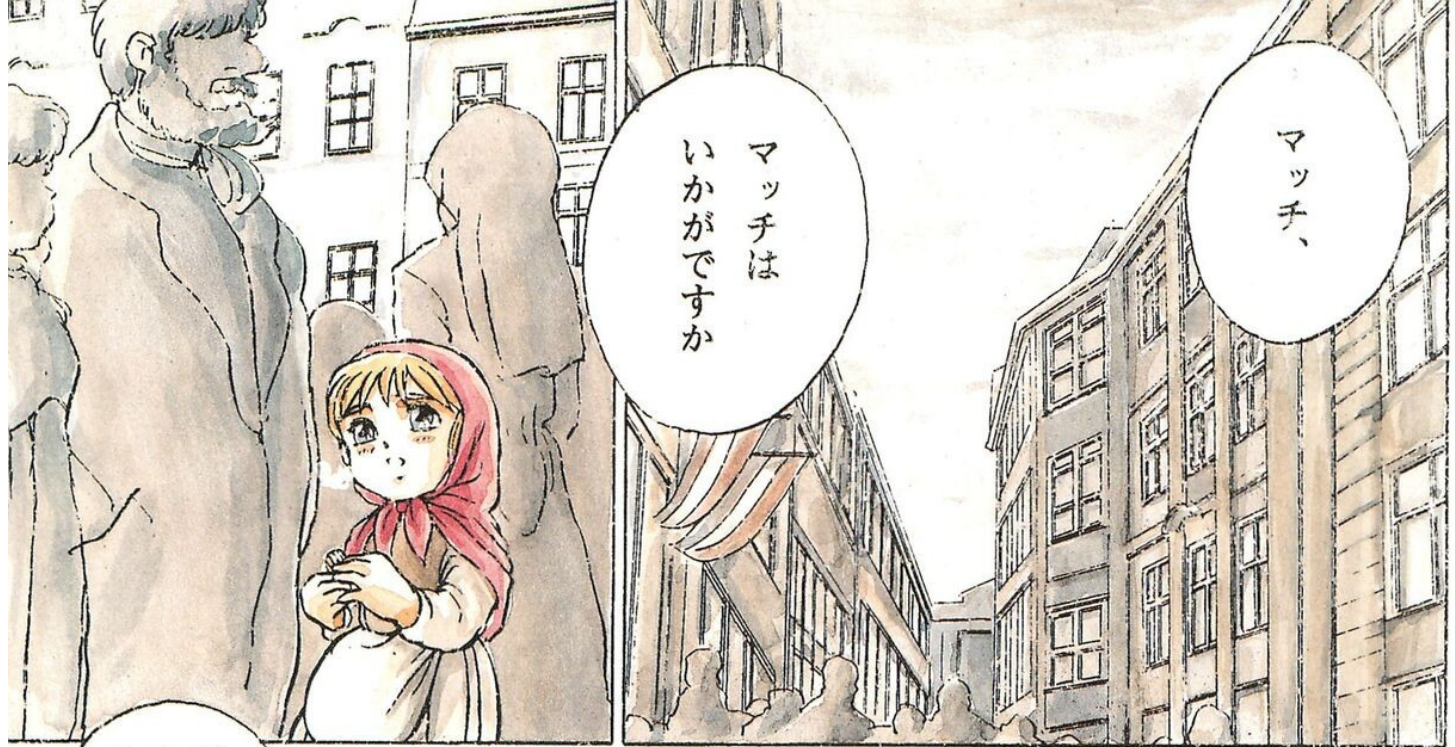


倒錯童話集 4.0



マッチ売りの少女

成人向



マッチは
いかがですか

マッチ、

困ったわ…
今日はちっとも
売れない



マッチのご用は
ございませんか?

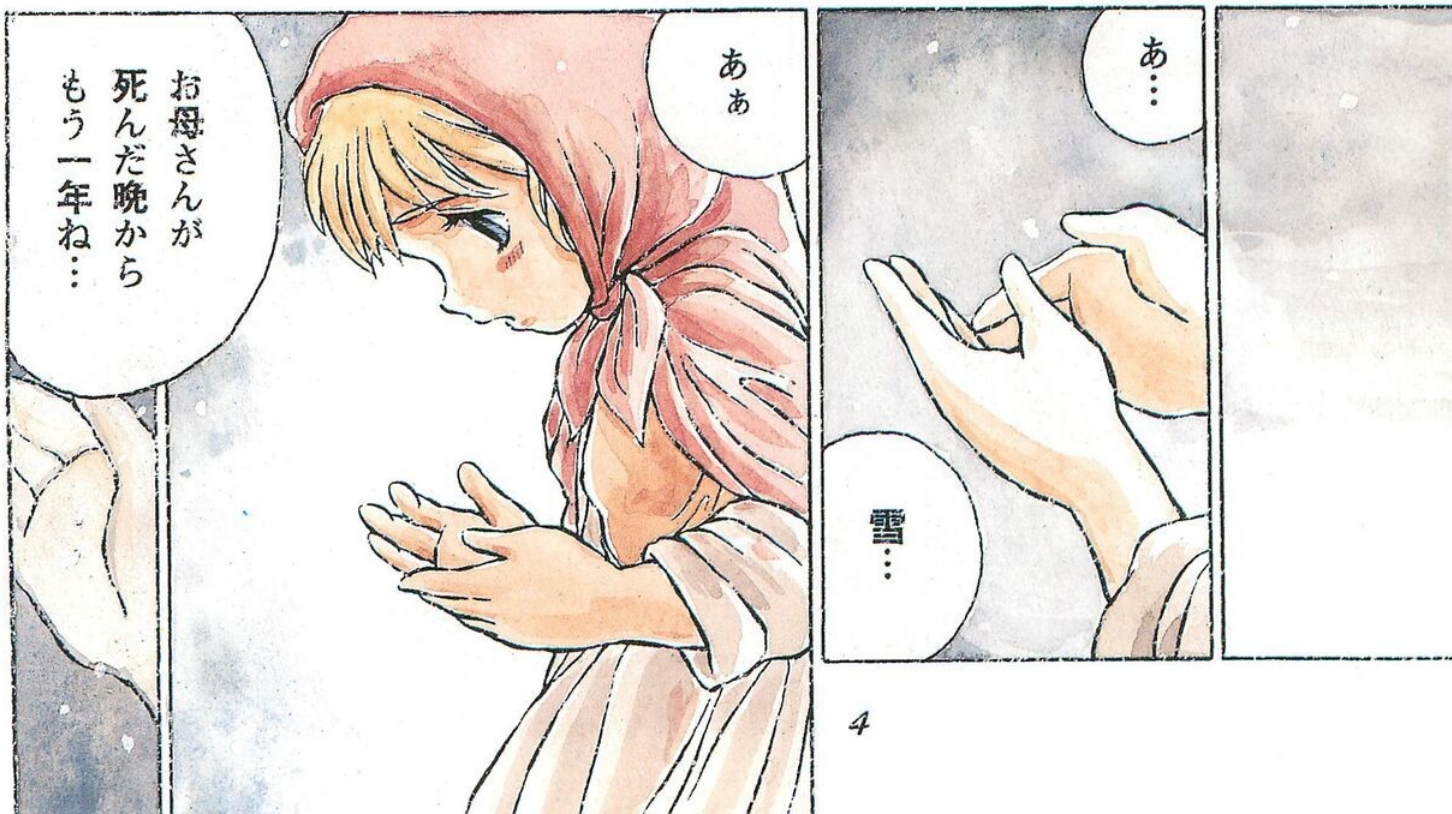


みんな、
楽しいことで
頭がいっぱい…

そうよね…
今日はクリスマス
イヴだもの

私なんか
見えてないんだ…

マッチ売りの少女

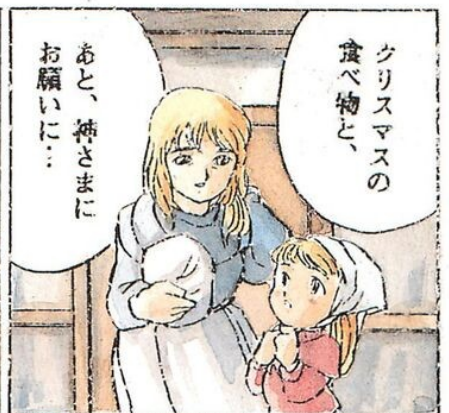
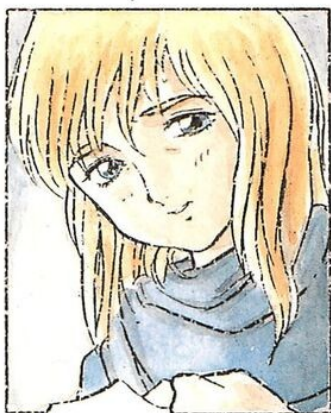
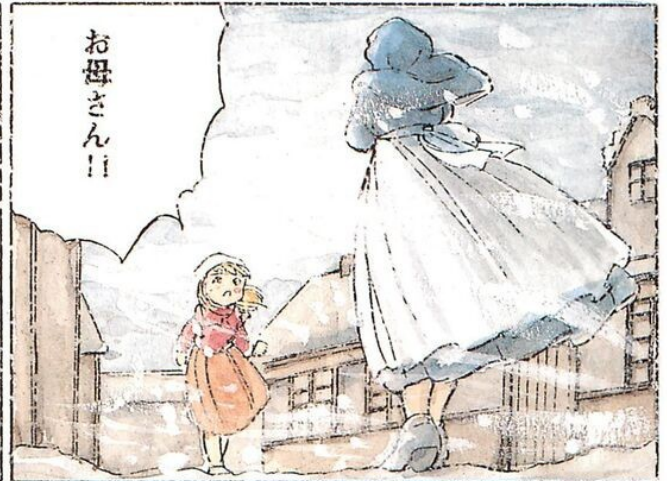


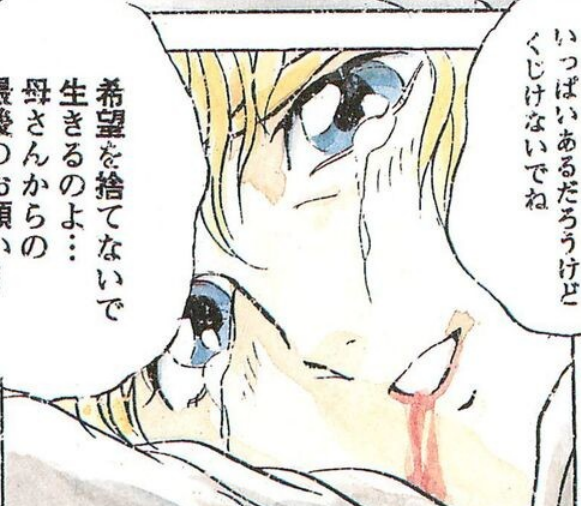
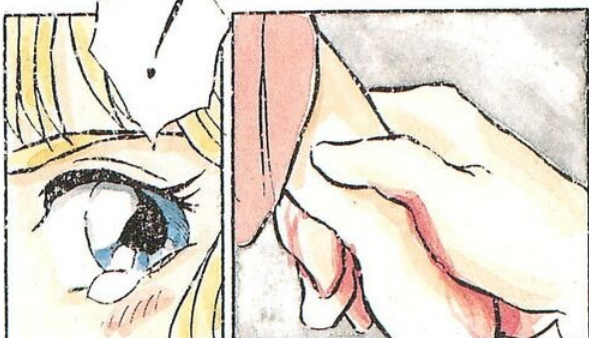
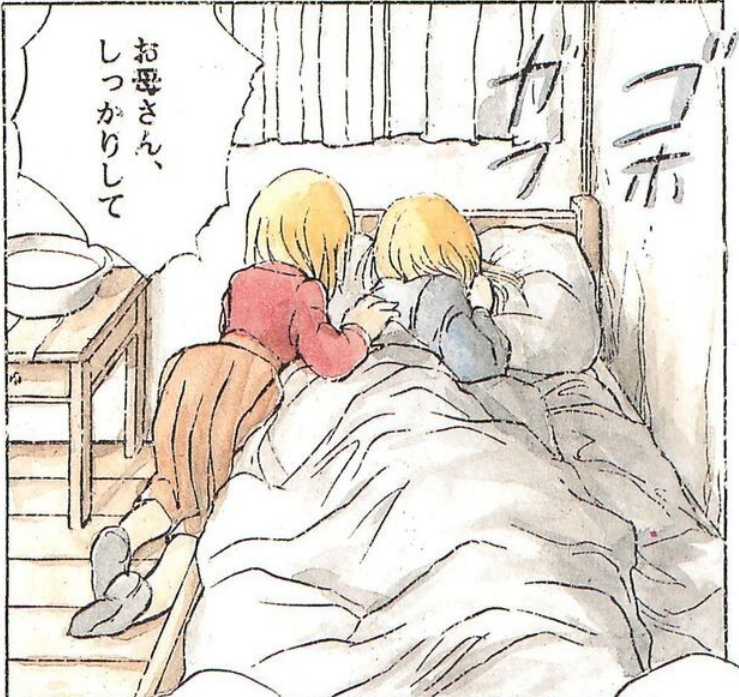
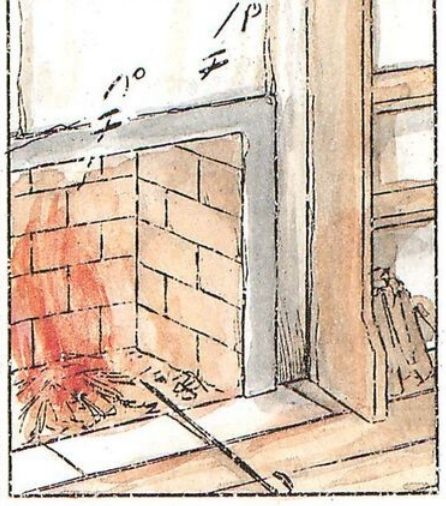
お母さんが
死んだ晩から
もう一年ね…

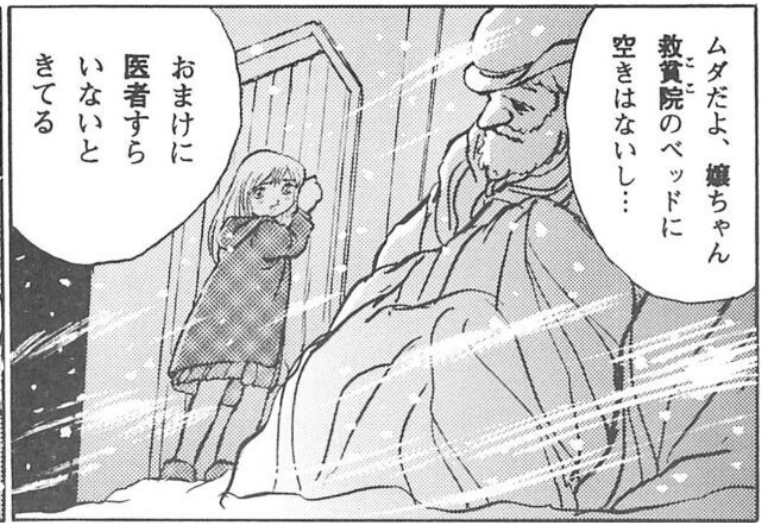
あぁ

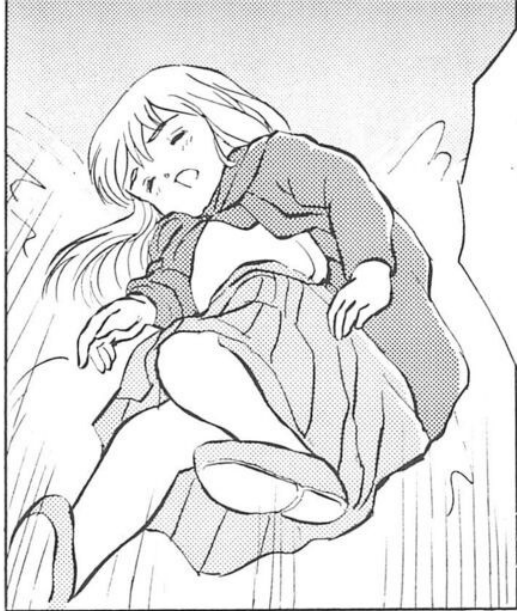
あ…

雪…









汚い手で触るんじゃないよ！

コラ！

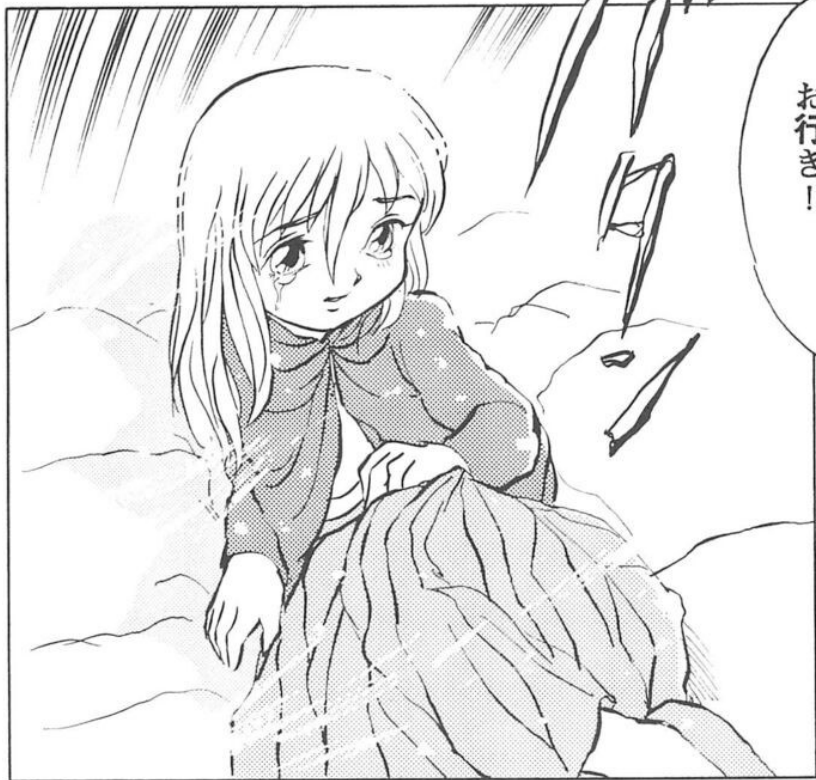
そんな！
お願いです
どうか…



フン…

あいにくだけど、
先生は、お忙が
しくてね…

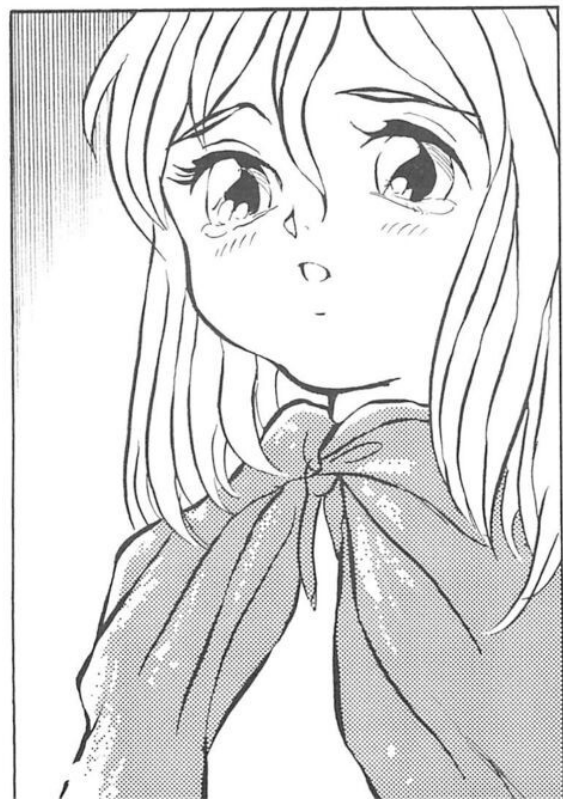
ジロ…



乞食は
乞食らしく、
救貧院にでも
お行き！



ここは
慈善病院じゃ
ないんだ



お医者さん、
みんな…

お母さん…
ごめんなさい



ぐす、

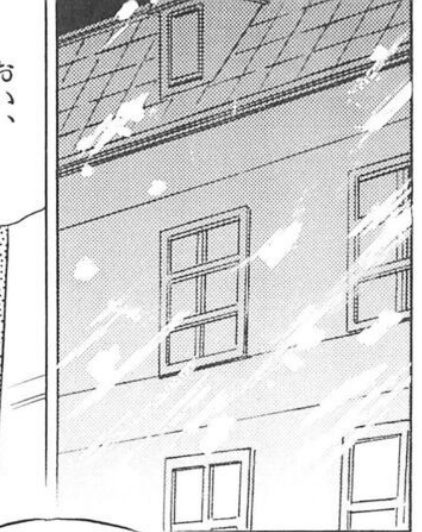
ひっく…



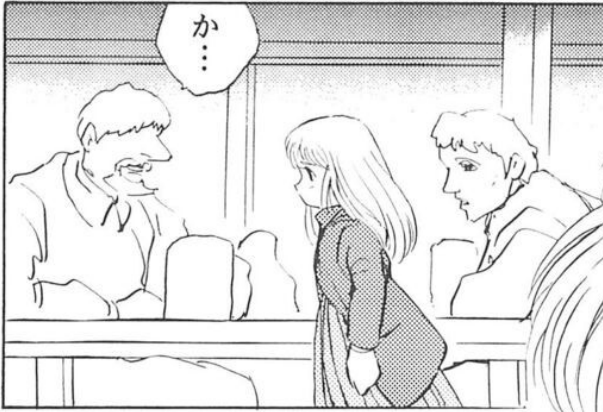
オラ！
さつさと
ドアを閉め
ねえ…



ドアが
開いてる
んだ



おい、
何だか
寒いな



か…



こんなとこで
何してんの？

……
お父さん

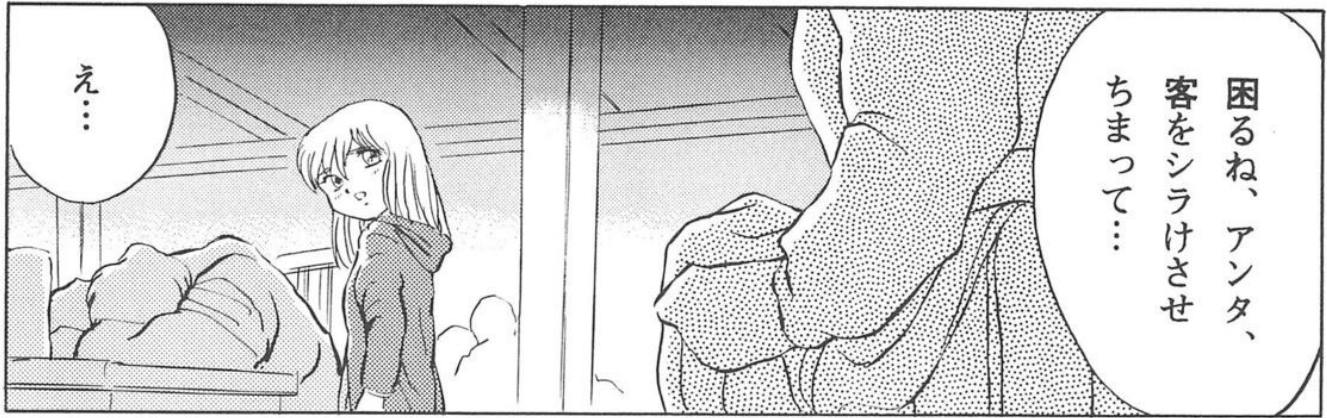


血、いっぱい
吐いて…

死んじゃったよう！

お母さん

死んじゃった
よ…



え…

困るね、アンタ、
客をシラけさせ
ちまって…

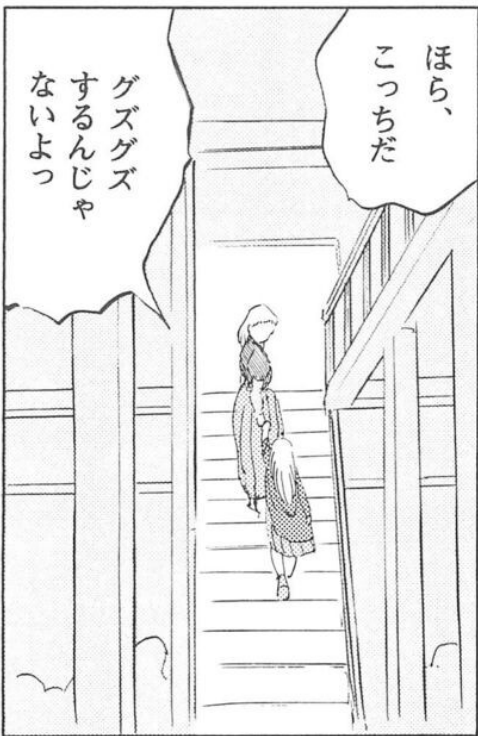


フン…
アンタが
クリスの娘
かい…

ちようどいい、
ちよつと顔を
貸しとくれよ…



今、コイツに
何言つても
ムダだよ



ほら、
こっちだ

グズグズ
するんじや
ないよつ

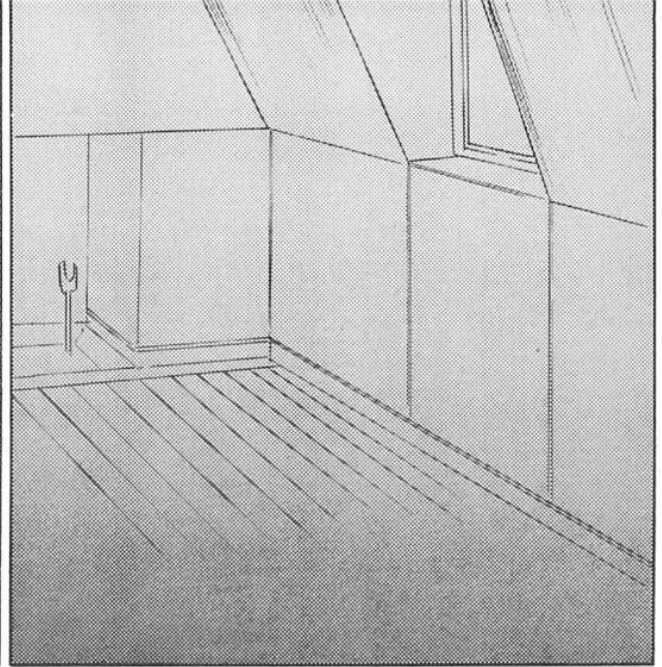


い、いやあ…
お母さんが…

死んじまつたんだろ？
今さら、何をするっ
てんだい！



さあ、
服を脱いで
裸になりな



えっ

なんで
私、そんなんじや

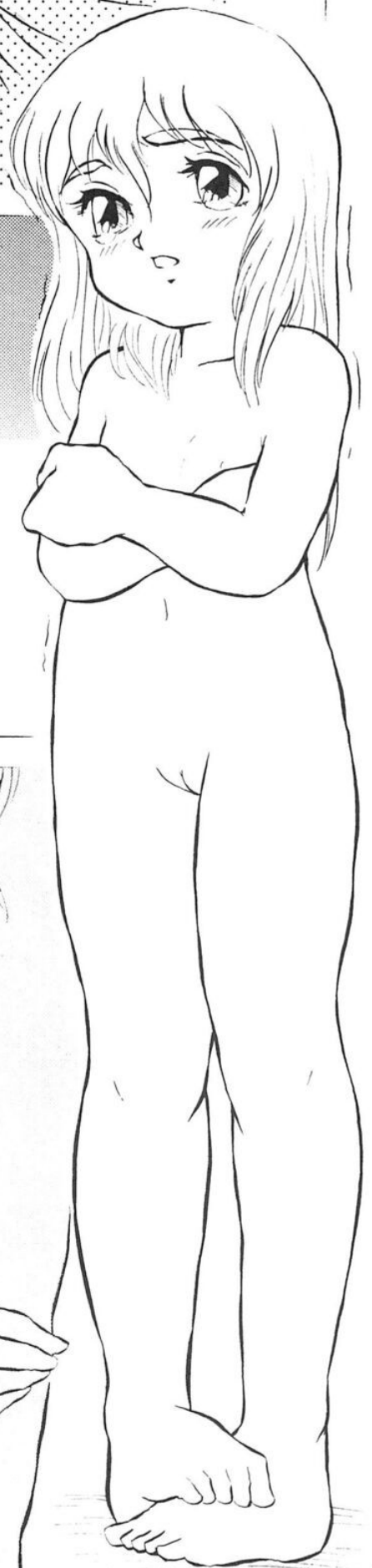
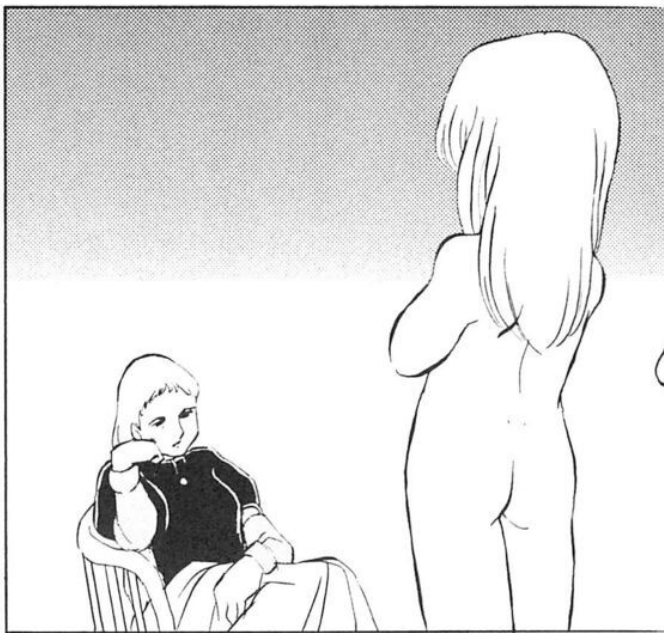


安心しな、アンタの
身体を品定め
するだけさ



自分の立場が
分かっているのかい？
アンタにや、「なぜ」
も口ごたえも許され
ないんだよっ

母親が死んだ今、
誰がアイツの飲み代を
払うんだい、どなた様が
アンタの飯代をお恵み下さるってんだい？



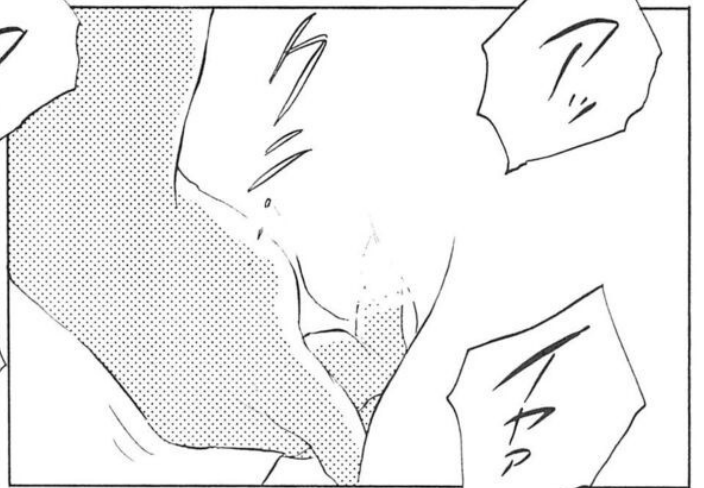


さすがに
こっちはキレイな
薄桃色だねえ…

けど…



こう
ホールが浅くちや
まだまだだねえ



奥さま、
ちよつと…

コンコン…



こいつは当分
使えないね…

やれやれ
オナニーも
したことない
のかい



フン…

あう…



アンタ、
ついてるよ

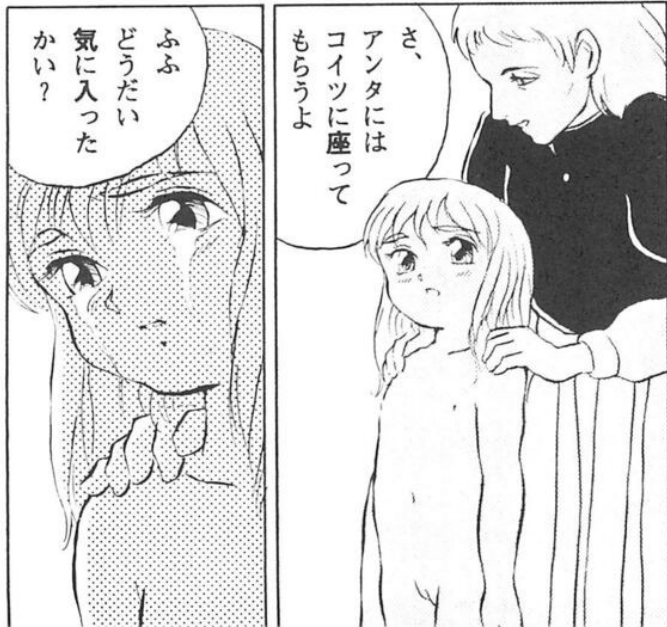
ふうん…

…へえ…
あの人がねえ…



めったに
お見えにならない
方なんだけどね、
優しいし払いはいいし…
あたしが代わって
やりたいくらいさ…

ま、
いく分、
変わっちゃ
いるけどね…



さ、
アンタには
コイツに座って
もらうよ

ふふ
どうだい
気に入った
かい？



さ、
こちらです
牧師様

なんて
ことだ！

ムムン！

まだ
ほんの子供じゃ
ないか！

君たちには
弱者をいたわり
かばう、慈悲の心が
ないのか！

は、
はあ…

もういい、
下がりましたまえ！

君！
大丈夫か？







ああ…
イヤア…
どうして?

奥の奥までくまなく
すりこんでおかねば
ならない

助けて
くれるんじゃないの?
なかったの?



や…



私はいつも
民衆を助けている
それに、いつ君に
ヒドイことをした?



助ける?



ひっ



さるぐつわも
とってやったし
寒さよけの
オイルも塗って
あげた

そして今なお
君のかわいらしい
ピンクのアヌスに、
聖なる十字の洗札を
授けんとしている…

…お母さん…
ああ、マダムから
聞いてますよ

君のお母さん、
今晚、天に召された
そうだねえ……

…きつと
天国で
喜んで
いると
思うよ



うっうっ
やめて

君の初めての
儀式が…

ふふっ…
我、少女を
破瓜せり

然る後、
少女の鮮血をして
潤滑液となさん



神の使徒の
モノによって
為されることに



ああ！

ああ



あー
ビーン



さあ、

さあ…

私の分身たちを
なめてあげてくれ…
言うことを
聞かないと…

ふふ…

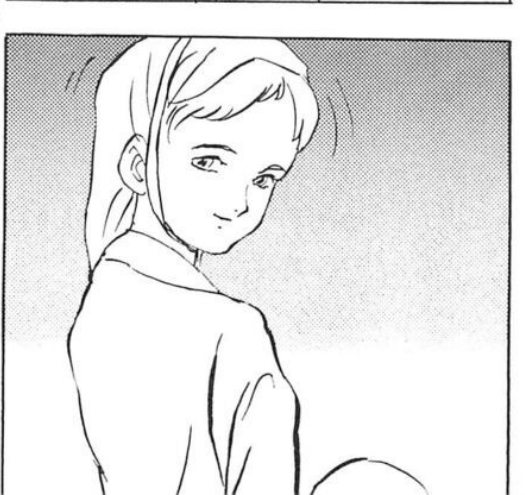
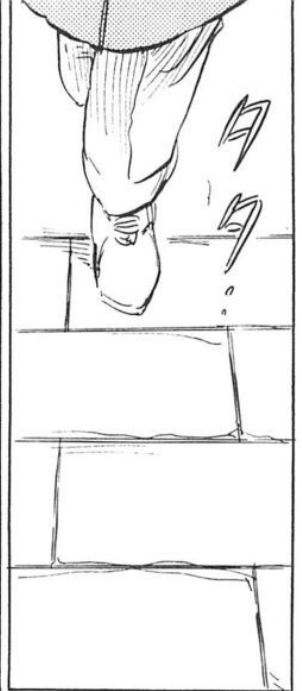


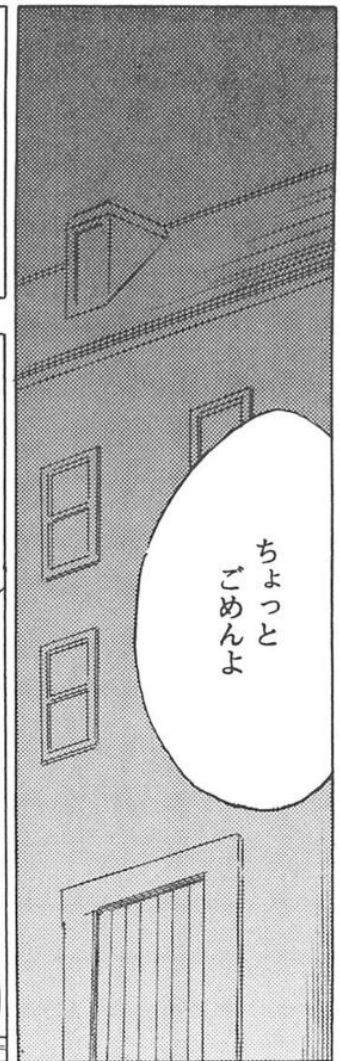
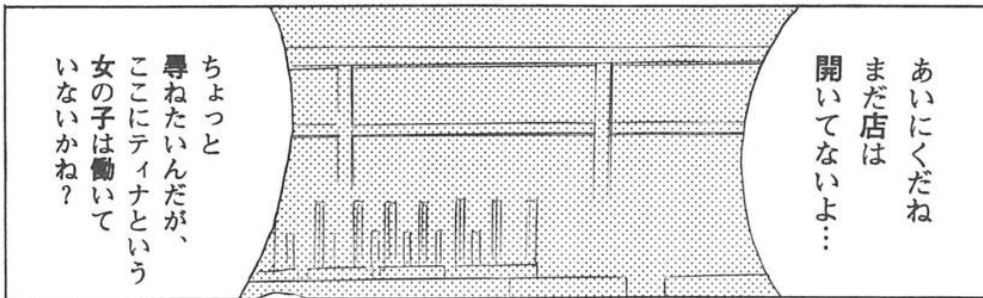
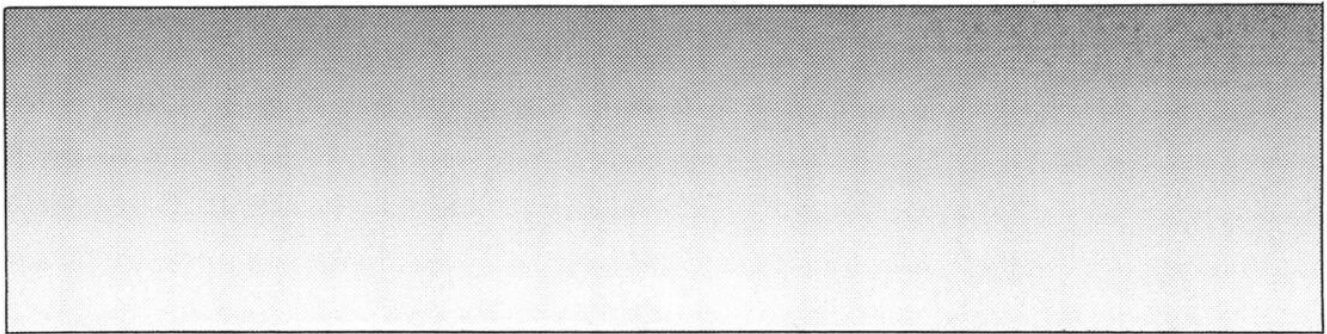
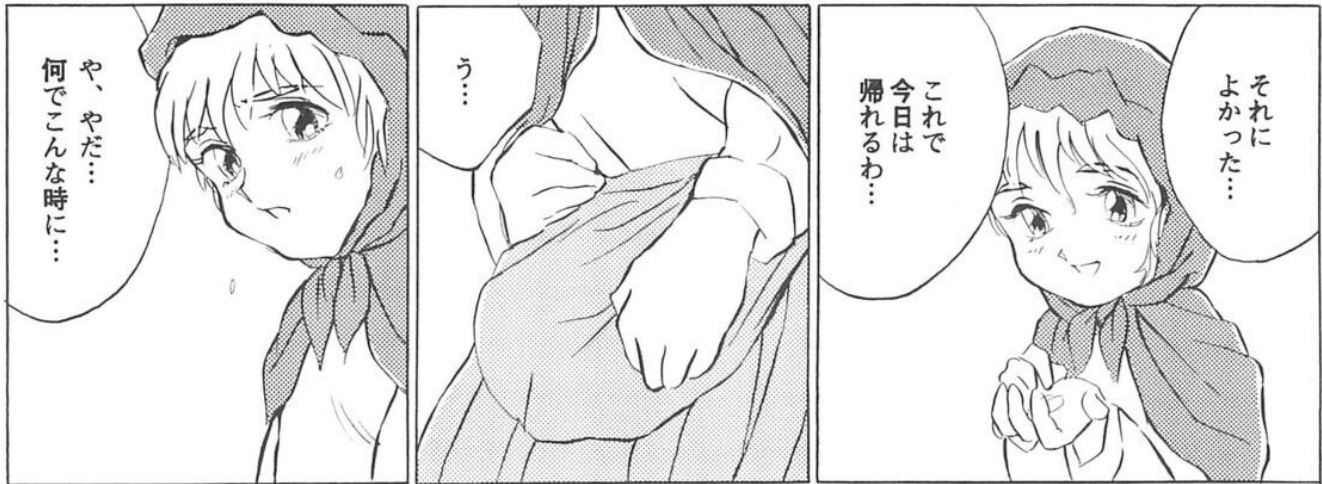
ねえお母さん
あのお姉ちゃん
なんで泣いてるの？

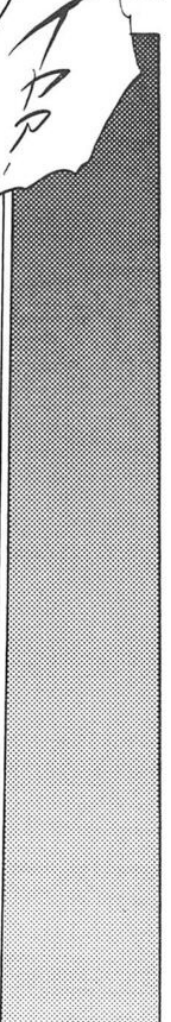


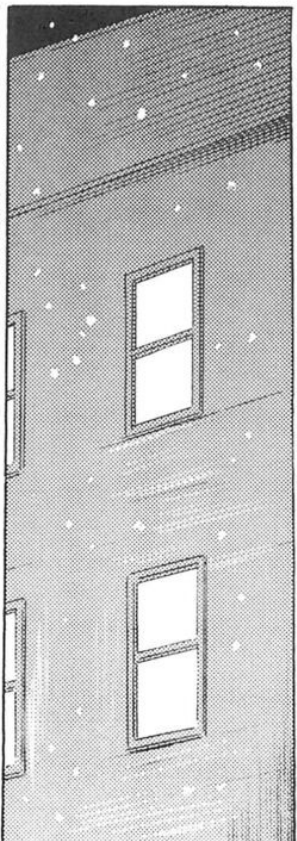
だめよ、
そういうこと
言うもんじゃ
ありません

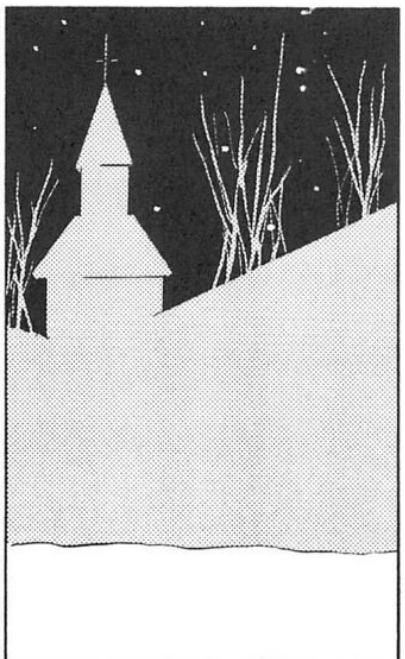
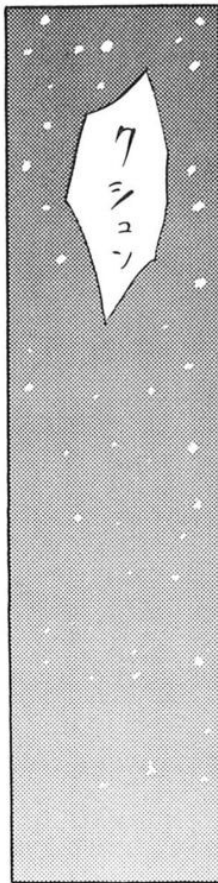
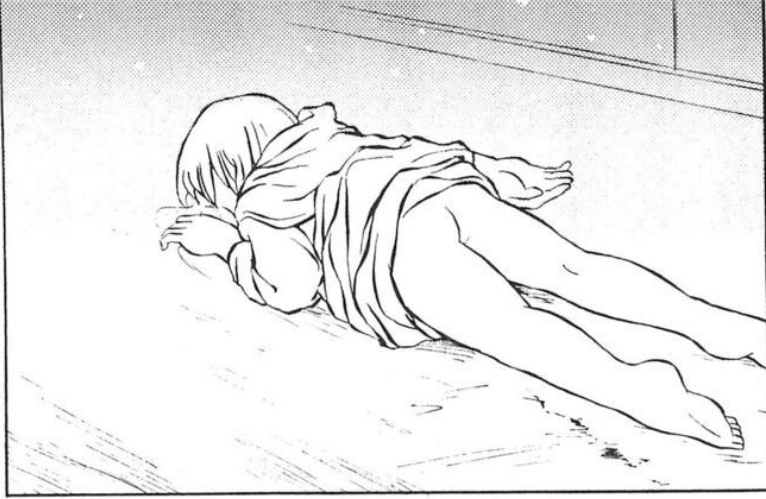














お母さんは
強かったよ…

でも、私は
もうだめ…



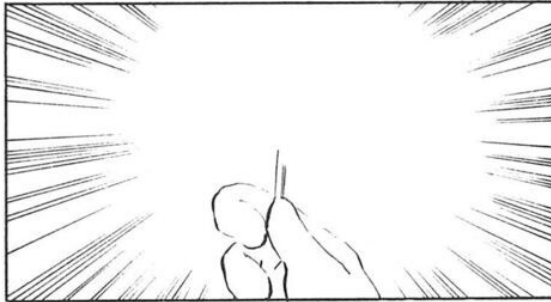
希望を
捨てないで…

母さんからの
お願い…



お母さん…

私…
疲れちゃったよ…



私に残って
いるのは…

もう、この
マッチだけ…



あ…

真赤に燃える
ストーブが！



暖かい…

なんて、
暖かいんだろう…



お母さん!?



あ…



それに、
暖かいごちそう…

わあ…
とつてもおいしそう…

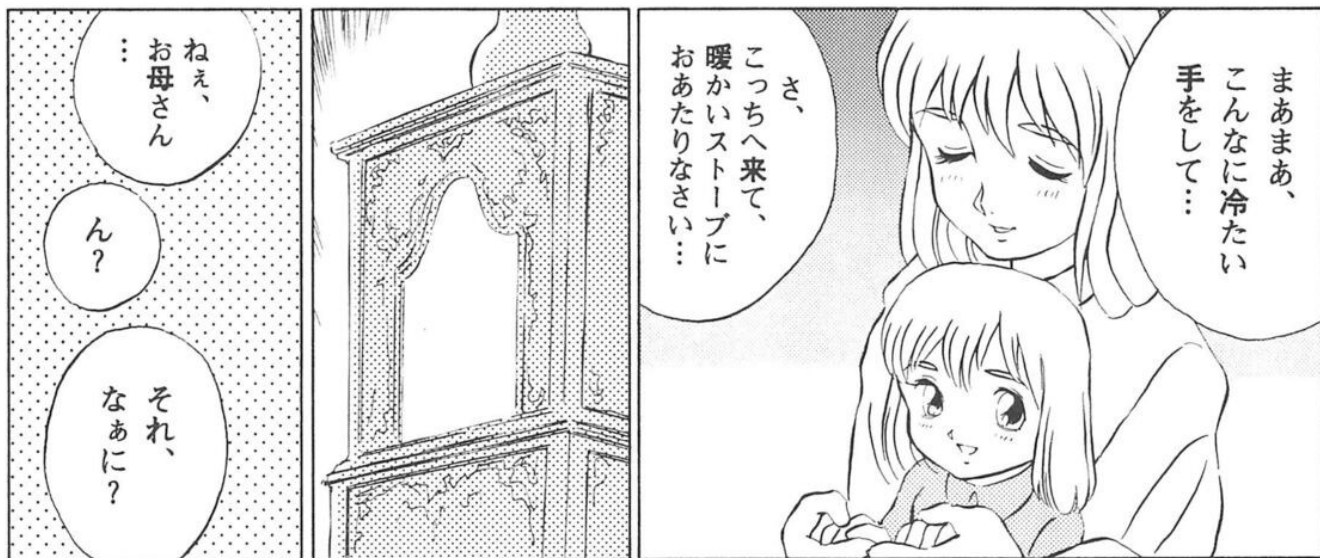




あら、
ティナ…

おかえり
なさい…

外は
寒かった
でしょ…？



まあまあ、
こんなに冷たい
手を…

さ、
こっちへ来て、
暖かいストーブに
おあたりなさい…

ねえ、
お母さん

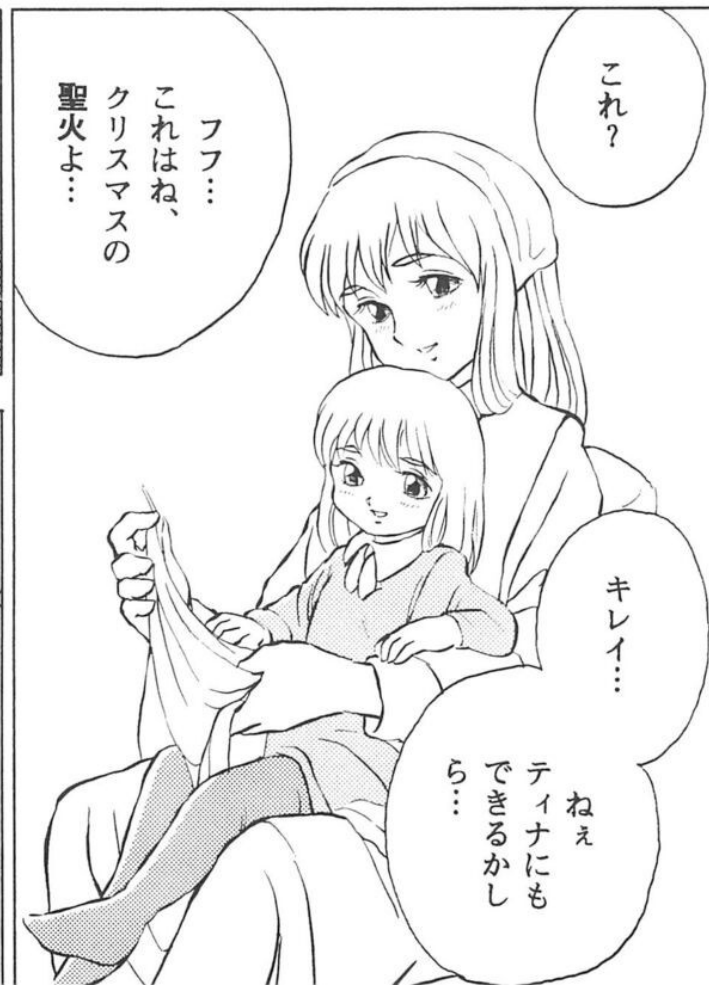
ん？

それ、
なあに？



ええ、
もちろん

ティナなら
もつと素敵な
刺繍ができてよ…



これ？

フフ…
これはね、
クリスマスの
聖火よ…

キレイ…

ねえ
ティナにも
できるかし
ら…

そうだ…

あたしね、さつき、
とつてもキレイな
明かりを見たよ…

とつても
明るくてね
暖かで…

それで
ね…

あれ？

ティナ：

お母さん
どこ？
見えないよ…

お母さん、やだ：
独りぼっちにしないで！
私も一緒に…

いけません
もう、お別れよ…
ティナ、あなたには
未来があるわ…

いやあ
待って！

元気でね、
ティナ：

待って、
お母さあん！

へ？

ま、手足の
凍傷は軽いが、
薬布とマッサージ
を忘れないように

はい、先生
どうもありがとうございました

あなたは…

そうだった、
私の名はヤン、
木彫を生業と
している者だ
君は…ティナ
だね？

さてと

何から
話したものか…

は…
はい

実は、君のお母さんの
クリスティーナから
手紙をもらってね…それで、
ここにやってきたんだ…

その中に
君あての手紙も
同封されていた…

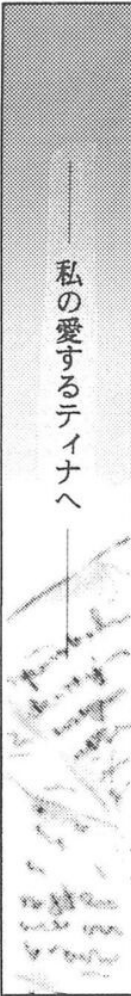
あいにく、仕事で
各地を点々としていたので、
受け取るのが遅れてしまった
…すまないと思っっている



お母さんからの
手紙…?



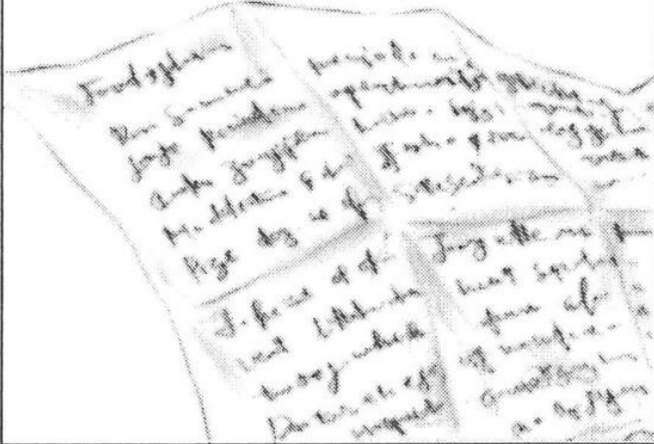
私の愛するティナへ



ティナ…あなたが、この手紙を
読んでいるということは…
少なくとも私の願いの半分は
天に通じたものと嬉しく思います。

あなたにこの手紙を届けてくれたのは、
ヤン・シユナーセンといって、
お母さんの生まれ故郷の幼なじみです。
…とつても勤勉な、信頼できる方よ。

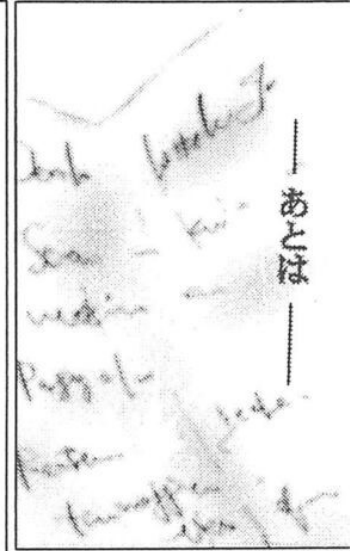
…彼への手紙の中で、私はヤンに、
あなたの後見人を願い出しました。
…これが、今の私にできる最善の方法
だったのです…



— あなたの最大限の幸福を願って…
母クリスティーヌより…



— あとは、あなた自身の決断です。
ヤンがあなたに、この手紙を渡したということ。
…これは彼が、私の願いを
聞き届けて下さったという
証しなのですから…





天国のお母さん

私は今、満ちたりた、
幸せな時間ときを送っています



ヤン伯父さんは、とても素敵な
方で、いつも冗談を言っは
私を笑わせてくれます。



それに伯父さんの木彫。
大胆で緻密で、話術に
負けず劣らずの素晴らしさ
なんですよ。

この間、

ヤン伯父さんと
お母さんが一緒に
過ごしたという、
美しいサイスの
平野へいを見してきました。



ここがお母さんの
生まれ故郷なんだ
そう思うと涙が
とめどなくあふれ
てきました。

—— 悲しくてじゃ
ありませんよ。
なんだか無性に
嬉しかったんです。

追伸

私は最近、刺繍ステッチを始めました。



あの晩、見た光

あの感動を、
忘れないうちに
形に遺しておこうと思うのです。





— あの夜に見た、
暖かな光を —

マッチ売りの少女～End

解説 マッチ売りの少女



Denne lille pige med svovlpindene har givet H.C. Andersen inspiration til en af de historier, han havde fået bestilling på til en almanak i 1842. (170).

「マッチ売りの少女」のモチーフとなった木版画。T・ルンビー(1818-48)の作品。説明文に“givet H.C.Andersen inspiration…”と書いてある。

下はアンデルセン博物館(オーデンセ)の展示品。それにしても30歳で他界しているとは…20代の作品かあ…むう。



「マッチ売りの少女」はアンデルセンの1845年の作品。

おみそかの晩、貧しいマッチ売りの少女は、マッチを一本も売ることができず、家に帰ることができない。疲れ切った少女はとうとう街のかたすみに座りこんでしまう。寒さをすこしでもやわらげられないかしら、と少女は持っていたマッチを擦る。すると不思議なことに炎のなかに、次々と少女の望むもの―暖かいストーブや、ごちそう、クリスマスツリー―が現れては消えた。最後に現れたのは少女を可愛がってくれた祖母だった。翌朝、人々は冷たくなった少女を見つけて憐れむ。でも少女が光の中を祖母に抱かれて天国へのぼっていったということを知るものは誰もいなかった。

アンデルセン童話は、グリムのような伝承蒐集の童話ではなく、ほとんどが創作童話である。伝承をベースとした作品も、彼自身の語り口で演出されている。

アンデルセン童話の特色は、その悲劇性と思われがちだが、けっしてそんなものばかりではない。そういった作品が突出して有名なだけだと思う。むしろ前述した通り、彼の巧みな文章構成、表現の美しさ

に、その真価がある。

さて、「マッチ売りの少女」であるが、これはアンデルセンが幼少の頃、母親から聞いた貧しい少女時代の話に基づいている。

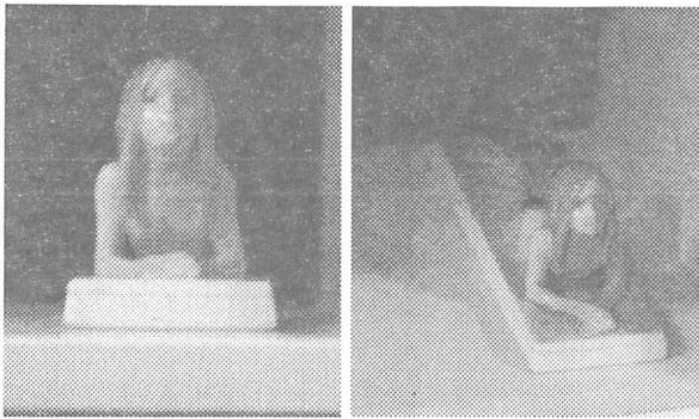
依頼人から木版画を三枚わたされ、この中からひとつ選んで、それに見合う童話を書いて欲しいと頼まれた。アンデルセンの選んだのは「マッチ売りの少女(左上参照)」であった。私は最初、この絵は「マッチ売りの少女」のために描かれた挿し絵のひとつだと思っていた。それゆえ、このエピソードはとても新鮮な驚きだった。

「でも、家を出たときには、スリッパをはいていたのです。」「雪がひらひらと、少女の長いブロンドの髪の毛に、降りかかりました。その髪は、えり首のところに、それはそれは美しく巻いてありました」(矢崎源九郎訳/新潮社)

こまかな服装や容姿の描写が、木版画と一致しており、興味ぶかい。

：日本に出まわっている絵本などの「マッチ売りの少女」は、忠実な翻訳ではなく、低年齢に読みやすいようにとの配慮のもと、再話されたものがほとんどである。いらぬ「配慮」だと思いが、そのせいで絵本の挿画も、マッチを入れているのがエプロンではなくカゴだったり、黄リンマッチでなく、安全マッチであったりしている。

↓アンデルセン博物館に展示されている陶器製の人魚姫。マッチ売りの少女がなかったのかわりに。胸のふくらみ具合が絶品です。



マッチの値段はいくらくらいだったのだろうか？ 原文での金額提示はないが、「1シリングのお金さえめぐんでくれる人もありませんでした」とあるから、これ以上。別の作品では、チーズひとかたまりが8シリングとあるから、だいたい5〜10シリングといったところでしょう。

あった。非常に発火しやすく（空气中で50〜60℃）石や壁にこすりつけるだけで着火した。1830年以降、量産されたが、黄リンの毒性や低温での発火事故等が問題となり、デンマークでは1875年、いち早く製造禁止となっている。

アンデルセンの作品は、日本での象徴的な作品イメージとは違って、かなりリアルタッチであり、その当時のデンマークの人々にはピンとくるたえや、固有名詞が頻繁に出てくる。「マッチ売りの少女」では、少女がマッチを擦ったときに現れる鉄ストーブの真鍮のトロムレ（ストーブから外気へ通じる煙突のようなもの）や、少女が履いているトフライ（板底の皮スリッパ）が挙げられるが真鍮のトロムレは豪華さを意味し、冬の外出に母のお古のトフライしかないことは極貧を意味している。（鈴木徹郎著／アンデルセンその虚像と実像より）いずれも訳文ではそのイメージを得るのは不可能である。：現代の、しかも日本で出す場合には、そのような忠実さは、無意味なものかもしれない。日本人の想像の範疇での挿画もいたしかたないかも知れないのだけれど…。

マッチの話がでたので補足しておく、この時代は黄リンマッチが主流であつた。非常に発火しやすく

当時の通貨単位は

リークスダラーで、部屋代が一月20リークスダラーで高い方だったというから、これを10万円と仮定しよう。1リークスダラーは6マルク、1マルクは16シリングだったので、計算すると、1シリング約50円となる。

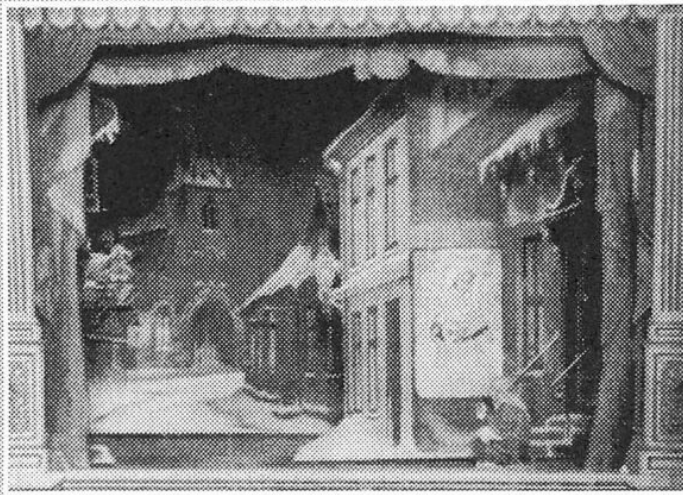


↑アンデルセンの生家（上）とアンデルセン博物館（下）（オーデンセ）

さいごに、今回の僕の「マッチ売りの少女」についてひとこと。原作のラストは充分認知されているので、できれば死なせたくなかった。助けられるくだりは甘いと思われるかもしれませんが、比較的マイナーなアンデルセンの作品「イブと小さいクリステイーネ」に、その元を採ってあります。

幼なじみで、子供ながら結婚を約束していたイブ（男）とクリステイーネですが、クリステイーネは数年後、金持ちの商人との縁談が持ち上がります。イブは、彼女の幸せのため身を引くこと決心し、地道に田舎で木工職人の修業と農耕を続けます。その後、イブは、畑の中から歴史上の遺物を発見し、賞金を手に入れます。その手続きでコペンハーゲンを訪れたイブは、

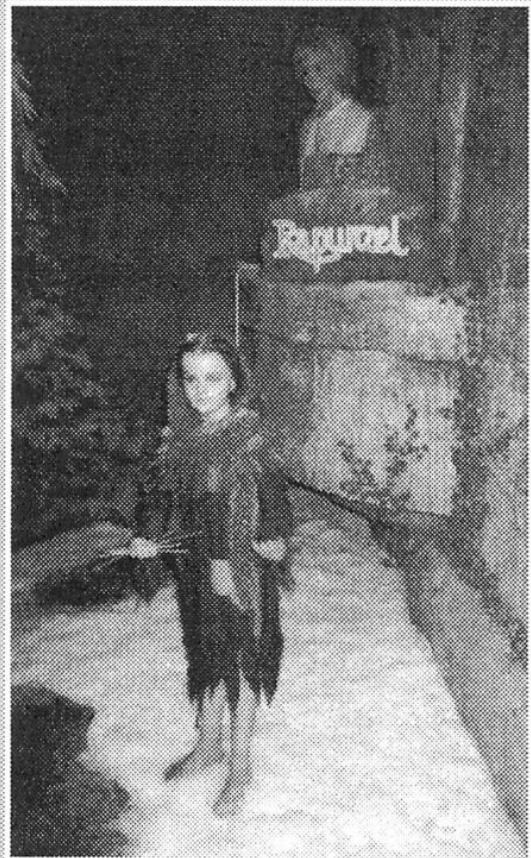
迷いこんだ貧民街で、幼いころ、よく遊んだクリステイーネに生き写しの小さい女の子が泣いているのを目にします。女の子について、あるみすばらしい部屋に入ってゆくと、そこにはあのクリステイーネがまさに息をひきとろうとしていました。彼女の死に際の願いから、イブは彼女の娘をひきとる…



←コペンハーゲンの「紙人形博物館」の入り口に飾ってある「マッチ売りの少女」。ささやかで、地味な作りがけっこういい味だしていました。

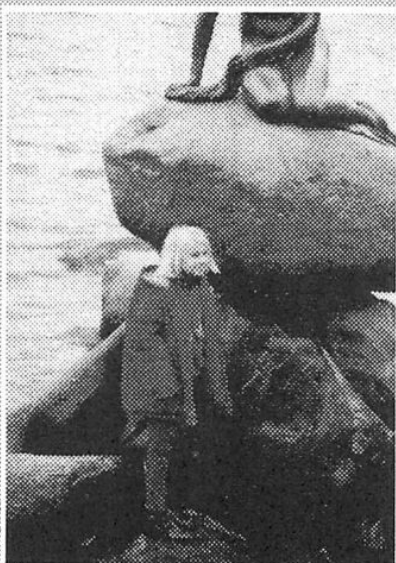
↓同じくコペンハーゲンの「ダッソー蠟人形館」に展示された「マッチ売りの少女」

こらダッソー。お前センスないんじゃ。薄っぺらい造形すな。手にもってる竹ひごみたいなのはマッチなのか。あと後ろにいるのはラプンツェル。あのお童話が違うんですが…。目もやたら怖いし。ダッソー系の蠟人形館はヨーロッパ各所にあるが、入らないこと。ひどいよ。



…といったところで話は終わります。が、この話も、とりよ
 によってはかなり倒錯しています。自分の好きだった、しかも
 結婚を果たせなかった女の子の娘を、手に入れるわけですから。
 ちなみにイブは独身で、しかも娘は生き写しと書いては…。
 岩波文庫の「完訳アンデルセン童話集3」に収録されています。
 とところで去年、デンマークに行つて、コペンハーゲンやオー
 デンセなどアンデルセンゆかりの地をひととおり見てきました。
 このコーナーの写真はそのときのものです。「マッチ売りの少女」
 像を期待したのですが、僕の見た範囲ではありませんでした。
 チボリ（遊園地）内のダッソー蠟人形館に非常に出来の悪いの
 がひとつあっただけでした。さらに書店にアンデルセンの絵本
 があふれているかと思いきや、そうでもない。絵本を大量に買
 い込みたかったのにちょっと残念だったのを憶えています。

どてろう



←コペンハーゲンの埠頭にある「人魚姫」の像。



←健康的なコペンハーゲンの市民

後記

前作「シンデレラ」では解説を落としてしまい失礼しました。とりあえず書くことはありますので、来年以降にリリース予定の「千枚皮の少女」にまとめて載せるつもりです。

今回は多くの方々にご迷惑をかけつつ、助力を拝領しつつ、じわじわと急ピッチに製作されました。本当に申し訳ないと、関係各位にお詫びしつつ、それ以上の感謝を申し上げます。

特に、面倒なアシスタント作業をこなしてくれた多摩川大吉楼氏、樋口氏（樋口くんは作業BGMもたくさん貸してくれてありがとう）、ネームをイラストレータで打ってくれた、いいからだつきの田野氏。

また、表紙をビクターTruePrint5600で出力くださった頭狂倶楽部のZUN先生（TruePrint5600は最高です。お金持ちになったら買います）、

そして度重なる重度の締切り遅延にも、いつも親切に対応下さった黒滝様、並びにトム出版様。本当にどうもありがとうございました。

また、お手紙をくださった方々、そしてこの本をお買い上げくださった読者の方々にも重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

来年も童話クラブと倒錯童話集をよろしく願いいたします。

どてろう

童話クラブ・連絡先

〒113 文京区本駒込3-32-1高垣方2F

喜多方「童話クラブ」まで

童話クラブ '96のラインナップ
兄と妹
千枚皮の少女
野の白鳥

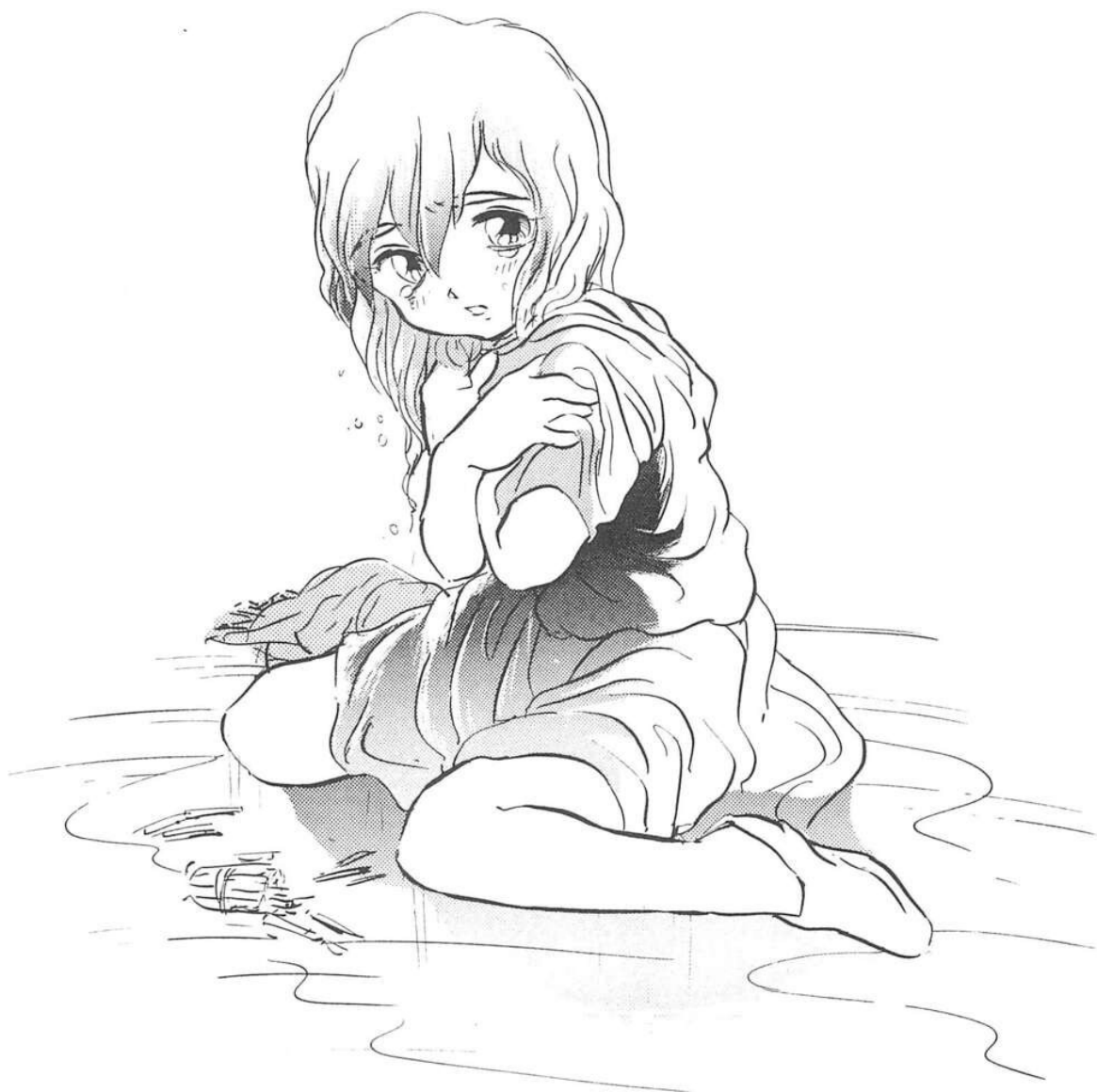
…の中から多くて2本

童話クラブは、

次回、

コミックマーケット50に参加の予定です。

おくづけ



倒錯童話集4.0
「マッチ売りの少女」

著者：どてろう

De Terrault'95

発行：童話クラブ

印刷：トム出版

1995年12月30日初版発行



*Eventry af H. C. Andersen,
Den Lille Pige Med Svovlstikkerne*

童話クラブ'95
DohwaClub'95 All Rights Reserved